



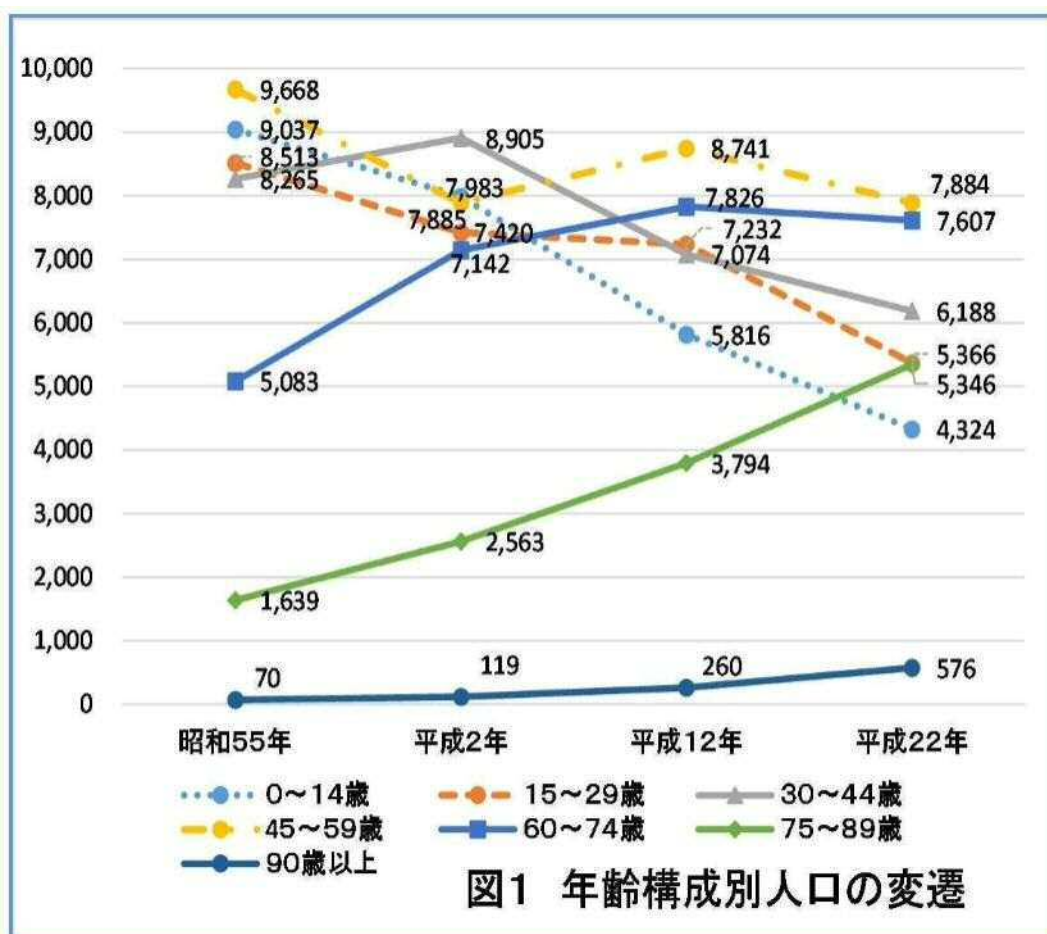
本市教育の現状

◆ 本市教育取り巻く社会の現状

○ 本市の人口の変遷と今後

昭和29年4月の市制施行以来、増加傾向にあった本市の人口は、昭和60年代を境に減少の一途をたどっています。さらに、年齢構成別の人口の変化(図1)から、人口の減少とともに、急速な少子高齢化が進んでいることがうかがえます。このような、人口減少社会と少子高齢化という大きな時代のうねりの中、平成23年度から10年後を見据えた第五次総合計画を策定し、「人・暮らし・環境が活きる交流拠点都市づくり」を実現するため、事業の展開を進めています。

施設関係では、平成に入り、平成3年の「碧水園」を皮切りに、表1のように歴史と文化の創造、健康の保持増進、生涯学習の推進、社会福祉の充実等のための環境整備が図られ、「市民生活の活性化」や「暮らしやすいまちづくり」が推進されています。



- 平 3 古典芸能伝承の館
「碧水園」
- 平 4 スパッシュランドしろいし
- 平 7 白石城復元
(旧小関家武家屋敷含む)
- 平 9 白石文化体育活動センター
「ホワイトキューブ」
- 平 10 白石市総合福祉センター
- 平 10 白石市情報センター
「アテネ」
- 平 14 公立刈田総合病院
- 平 15 ふれあいプラザ

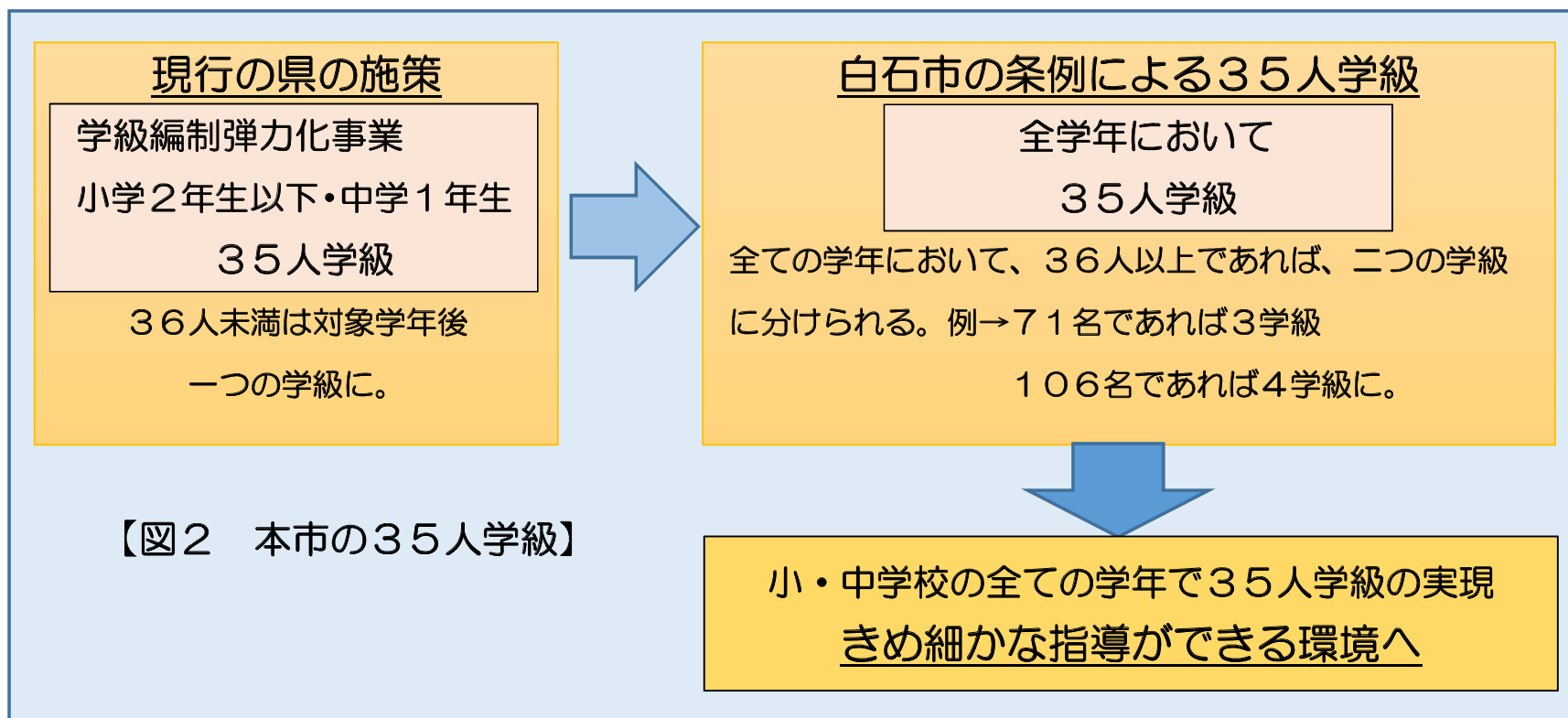
表1 平成以降の主な設置施設

○ 本市の学校教育の現状

教育(義務教育下)を取り巻く環境については、近年、時代のニーズに合った新しい整備が進められています。

① 学力向上を目指して

「2学期制」や平成27年4月施行の市独自の教育施策である「35人学級」(図2)など、特色ある教育環境の整備が進められています。また、市学力定着度テスト(年2回4、12月)も実施され、市内児童・生徒の学習状況を把握し、学力向上・指導改善のための指標となっています。

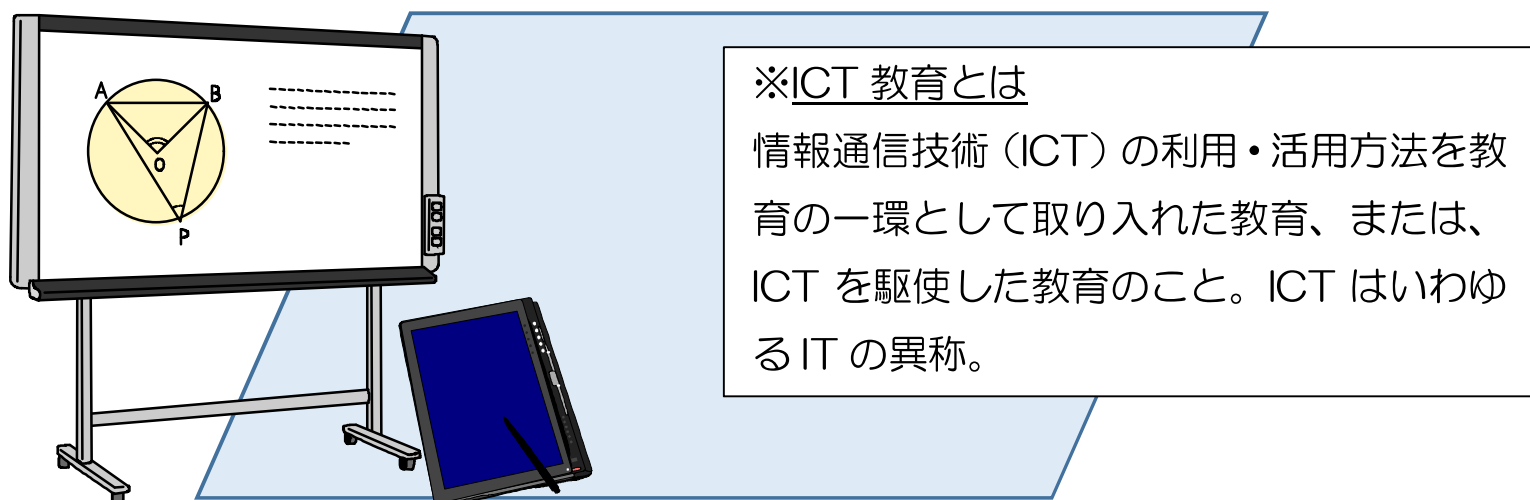


② 「幼・保・小」「小・中」の連携

幼稚園・保育園→小学校では、就学が円滑に行えるよう、「白石市アプローチカリキュラム」及び「白石市スタートアップカリキュラム」を実施するとともに、幼・保・小の連携のための教員研修会等を行っています。また、中学校への進学でも、小中連携の様々な中学校区ごとの取組をとおして、中1不登校等の「中1ギャップ」の解消を目指しています。

② ICT (Information and Communication Technology) 教育の充実

各校に児童用PCを設置済みですが、教育のICT化に対応できるよう、学校規模に合わせて電子黒板を配備し、デジタル教科書や実物投影機などとともに、効果的に授業で活用できる環境となりました。また、白石中学校、白石第一小学校にタブレットPCをそれぞれ41台配備し、各校への貸出のシステムも整備され、多くの学校で授業において活用されています。



以上のように、少子高齢化が進む中、次世代の白石を担う子どもたちのため、本市としても、子育て支援の充実に併せて、教育行政の質を高めつつ、学校教育のさらなる充実を目指していきます。